

地方大学学生のまちづくり参加意識の形成要因に関する調査分析

山口大学大学院 正会員 ○榊原 弘之
大分県 非会員 高木 将志

1. はじめに 地方大学の大学生が地域の活性化に積極的に関わっていくことが期待されている。しかし、多くの地方大学においては、県外出身の学生が大半を占めており、無条件に地域に関心を持つとは限らない。本研究では、地方大学学生が、大学所在地域のまちづくりに関心を持つ契機となり得る要因についてのアンケート調査を実施し、分析を行う。

2. 調査概要 アンケート調査を Web のモニター調査により 2016 年 10 月 7 日～11 日に実施した。中国・四国・九州地方在住の全学部の大学生を対象とし、回答者数は 197 名である。調査項目を以下に示す。

- ・人的交流密度（アルバイトや部活動、サークル活動経験の有無等）
- ・大学所在地域についての教育体験（大学所在地域の歴史や政策についての学習経験の有無、インターンシップ経験、大学所在地域でのボランティア経験についての質問）
- ・地域資源認知度（大学所在地域のスポーツチームや観光地などに対する認知についての質問）
- ・個人属性（学部（文系、理系）や出身地、大学が所在する市町村名などの個人属性についての質問）
- ・大学所在地域への認知度・関心度
- a. 娯楽・私生活(学生生活を楽しむことに対する意欲)
- b. 歴史・偉人(歴史・偉人の知識獲得への意欲)
- c. まちづくり(まちづくりへの関心、意見表明することへの意欲)
- d. 参加意欲(インターンシップや職場・工場見学の参加意欲)
- e. 運営(地域のイベント運営意欲)
- ・大学の所在県内への就職希望

3. 調査結果 調査結果の一部を以下に示す。

- ・個人属性：表-1 に個人属性に関する回答分布を示す。男女、文系・理系の回答者数はほぼ同等である。また、また全回答者の約半数が大学が所在する

る県以外の出身である。さらに、西日本における政令指定都市及びそれに準ずる大都市が所在する 5 県（福岡県、広島県、岡山県、熊本県、愛媛県）在住の大学生が 113 名、それ以外の 12 県在住の大学生は 84 名である。

- ・教育体験：表-2 に大学が所在する市町村や県の歴史や政策などについて学習する機会に関する回答分布（複数回答）を示す。約 4 割の学生が、大学の講義の一環として学習した経験があると回答している。また表-3 及び表-4 は、インターンシップ及びボランティア活動の経験に関する回答である。全学年の学生を対象としていることから、インターンシップ経験者の比率は比較的低い。一方、3 割弱の学生が、大学の所在県内でボランティア活動に従事したと回答している。
- ・まちづくりへの関心：表-5 及び表-6 はそれぞれ、大学の所在市町村内でのまちづくりに関するワークショップへの参加意欲、及び大学の所在市町村の祭りやイベントの運営への参加意欲に関する回答を示す。いずれの設問においても、参加意欲を有する学生は全体の 3 割程度である。
- ・就職希望先：表-7 は、現時点での就職希望先に関する回答である。学生の出身地も考慮した場合、計 66 名(33.5%)が大学所在県内での就職を希望している。

3. まちづくり参加意識の形成要因に関する分析 表-8 に、所属学部（文系、理系）（表-1）、県内出身か否か（表-1）、大学講義での地域に関する学習経験有無（表-2）、大学所在県内でのインターンシップ経験有無（表-3）、大学所在県内でのボランティア経験有無（表-4）とワークショップ、イベント運営参加意欲の間の相関に関するカイ二乗分析結果を示す。文系学部の学生は、理系学部の学生と比較してワークショップ参加意欲が高い傾向にあると言える。一方、大学所在県の出身学生と県外出身の学

キーワード 地方大学生、まちづくり、教育

連絡先 〒755-8611 山口県宇部市常盤台 2-16-1 山口大学工学部 TEL 0836-85-9355

表-1 個人属性に関する回答分布 (n=197)

性別		所属学部		出身地	
男性	98	文系	96	大学の所在県内	96
女性	99	理系	101	大学の所在県外	101

表-2 大学所在する市町村・県の歴史や政策などについて学習する機会に関する回答分布（複数回答）

項目		人数	比率
1	大学の講義の一環（レポートや課題も含む）で学習したことがある	81	41.1%
2	地域で開催されたイベントに参加して学習したことがある	13	6.6%
3	自分で本を読んだり、インターネットで調べたことがある	25	12.7%
4	学習していない	96	48.7%

表-3 インターンシップ経験（複数回答）

項目		人数	比率
1	大学の所在市町村内で参加したことがある	20	10.2%
2	大学の所在市町村以外の県内で参加したことがある	13	6.6%
3	自分の出身地（地元）で参加したことがある	9	4.6%
4	上記以外で参加したことがある	8	4.1%
5	参加していない	158	80.2%

表-4 ボランティア活動経験（複数回答）

項目		人数	比率
1	大学の所在県内でボランティアに参加したことがある	58	29.4%
2	出身地（地元）で参加したことがある	15	7.6%
3	上記以外で参加したことがある	10	5.1%
4	参加していない	125	63.5%

表-5 ワークショップ参加意欲

項目		人数	比率
1	非常に参加したい	28	14%
2	やや参加したい	36	18%
3	どちらともいえない	51	26%
4	あまり参加したいとは思わない	43	22%
5	参加したいとは思わない	39	20%

表-6 祭り・イベント運営参加意欲

項目		人数	比率
1	非常に運営したい	17	9%
2	やや運営したい	40	20%
3	どちらともいえない	46	23%
4	あまり運営したいとは思わない	48	24%
5	運営したいとは思わない	46	23%

表-7 就職希望先

全体		人数	比率
1	大学の所在県内	40	20%
2	出身地（地元）	64	32%
3	上記以外	32	16%
4	場所で判断していない	20	10%
5	まだ決めていない	41	21%

生の間では参加意欲に関する回答分布に有意差は見出されなかった。このことは、地元出身であることが直ちに地域のまちづくりへの関心につながるとは限らないこと、また県外出身の学生であっても、何らかの契機によって大学所在地域のまちづくりに対する関心を持ち得ることを示していると言える。従って、大学入学後の学生自身の経験が、まちづくりへの参加意識形成の要因となっていることが推測さ

表-8 まちづくり活動参加意欲との相関

	ワークショップ参加意欲	イベント運営参加意欲
学部（文系・理系）	—	**
県内出身か否か	—	—
大学講義での地域に関する学習経験	*	**
大学所在県内でのインターンシップ経験	**	***
大学所在県内でのボランティア経験	***	***

表-9 大学所在県内就職意欲との相関

	大学所在県内就職意欲
学部（文系・理系）	—
県内出身か否か	***
大学講義での地域に関する学習経験	—
大学所在県内でのインターンシップ経験	**
大学所在県内でのボランティア経験	*

—：有意差なし、

*：5%有意、**：1%有意、***：0.1%有意

れる。

大学講義での地域に関する学習経験、大学所在県内でのインターンシップ及びボランティアの経験に関しては、いずれも経験の有無によりワークショップ、イベント運営参加意欲に関する回答分布に有意差が認められた。この結果は、大学所在地域に関する学習経験が、まちづくりへの参加意識形成の要因となり得ることを示唆していると考えられる。県外出身の学生は、大学入学時点において大学所在地域に関する十分な知識を有していないことも少なくない。大学での学習経験は、学生が地域に対して関心を持つきっかけとなると考えられる。さらに、インターンシップ、ボランティア等の学外フィールドにおける経験が、まちづくり参加意識を強化させるものと考えられる。

4. 県内就職意欲に関する分析 表-9に、3.と同様の要因に関して、県内就職意欲の回答分布のカイ二乗分析結果を示す。県内出身であること、県内インターンシップ、ボランティア経験があることが、県内就職意欲に影響し得ることが示唆される。地元出身学生は、まちづくりに対する関心が高いとは限らないものの、地元就職意欲は高いと言える。一方、県内インターンシップ、ボランティア経験者は、まちづくり参加意識、県内就職意欲が共に高く、学外フィールドで地域に関与する経験が、学生が地域により深く関与する契機となり得ることが示されたと言える。

謝辞：本研究は科研費基盤研究（A）（16H02384）の助成を受けたものである。付して謝意を表します。